

平成21年度生活創造大学情報文化科提言

情報文化科では、「ふるさとの魅力！再発見」をサブタイトルにカリキュラムを組みました。合併後の「ふるさと多可」をテーマとした4年目の取組みです。毎年講師の方を迎えての講座と学外研修、町内探索で構成しています。学外研修で訪れるのは、地域を元気にしようと住民の方が頑張っておられるところを中心に計画しました。文化的遺産などの規模は多可町とは違いますが、住民の頑張りや思い入れを肌で感じる事が出来、今後のまちづくり活動（地域が元気になること）のヒントと活力をもらっています。

今年度学外研修で訪れた奈良県今井町には、江戸時代の建物を多く残す奇跡的な町並みがあります。この町並みを守っていくのにどれだけ多くの努力があったのか、ボランティアガイドさんに説明いただきました。その中で、近年少子高齢社会が進み若者人口が減り、もはや保存活動や助成金だけではどうにもならない空き家対策や観光地化などの問題が浮上しているというのも印象的でした。保存とにぎわいの狭間で苦しんでおられるという、外からでは見えにくい一面でした。

今年度は計7回の講座を開きました。その中から以下の2点を提言と致します。

1. 空き家を生かしたまちづくり

～多可町にあった！都会の人から見た都合のいい暮らし方～

今年度の感想文集を見てまずこのテーマ「暮らしを語る・田舎を語る ～多可町に移り住んで～」を取上げることにしました。問題提起された興味深い意見が多く、これは是非多くの人に読んでいただきたい。一緒に考えてもらいたいと感じたからです。

田舎の良いところ取りをして充実した暮らしをしておられる都会の人。そんな暮らし方に困っておられる田舎の人。都会の人が気づいて私たちが気づかない田舎の良いところ。田舎暮らしをされる都会の人がこのまちに活気をもたらししていること。また、それを期待していること。空き家が増えていて今後もその傾向にあり何とかしたいこと。等がそこに記してあります。

都会の人にとって都合のよい暮らし方が多可町にあります。都市と田舎の二重生活。第4回の「暮らしを語る・田舎を語る ～多可町に移り住んで～」という講座で感じたことでした。

都会で仕事をして週末に多可町で暮らす。多可町で仕事をして週末都会に戻る。また、1日の内に往復もする。そんな生活をしている人やそんな暮らし方を求めている方が多くいらっしゃいます。単に多可町で別荘を持つとか、滞在型市民農園を利用するのは少し趣が違うようです。

そのような方にとって多可町は神戸大阪から1時間半から2時間程度で来られるし、十分田舎であってしかもそんなに不便でもない。仕事を持つ都会人にとって、都合のよい暮らしが出来る魅力ある田舎が多可町なのです。

この方たちと、今後多可町に活気をもたらしような関わり方が出来ればいいのにと思い

ました。しかし、多可町だけに住む私たちとのギャップも大きいようです。

多可町で都合のよい暮らし方を望む人たちには多可町はこういう姿であって欲しいと希望があるように、私たち住民からするとこういう暮らし方、関わり方をしてほしいという希望があります。それには、地域の文化を理解して地域に溶け込んで暮らしてほしい。村つきあいをしてほしい。都会から多くの仲間を連れてきてほしい。ふるさとの味・特産品の買い物を始め、消費は多可町でしてほしい。など、いろいろあります。

感想文集にもありますように、私たちの周りには空き家が結構あります。むろん所有者があつてきっちり管理をされているところもありますが、やはり近所に空き家があると物騒なものです。多可町には空き家バンクの登録制度がありますが、登録は少ないようです。空き家の所有者や近隣の方、そして田舎暮らしを求めている方、それぞれ空き家に対する思いが違います。このまま放っておいては誰の利益にもならないばかりか三者（所有者・近隣者・居住希望者）とも困ってしまいます。地域の活性化につながる空き家の利用方法の検討、そして利用してもらう場合のルールづくりが必要です。

今、町のやっておられる「登録を受け付ける」「紹介をする」から一步進めた、三者のため更には町のためになるルールづくりを行い、積極的な登録・紹介制度を推し進めたいものです。まちづくり・村づくり全体を見据えた住民活動の中に「空き家バンク」も取り入れて都市との交流・まちの活性化につながればと思います。

2. 心の合併はたかテレビから

多可町も合併5周年を迎え心の合併が言われています。心の合併は地域を知ること、情報を共有することから始まると思います。その第一歩で、最も効果を上げることが出来るのがたかテレビで、今の多可町には無くてはならない情報・文化の発信源です。パソコンでも見ることが出来ますが、やはりテレビの魅力・手軽さにはかないません。

第6回講座でたかテレビを見学したとき、加入率が加美区八千代区では90%を大きく超えているのに、中区では30数%であると聞いて非常に残念に思いました。地域の特性上ある程度仕方のないことではありますが。(今の数字を確認しましたら、中区38.2% 加美区97.6% 八千代区99.5%でした)

放送内容は各地区の伝統行事、歴史文化遺産の紹介、各種団体の活動の様子、イベントや出来事、講演会の様子等々上げればきりがありません。特に自分の住んでいる区以外の様子や活動内容などは、多可テレビがあればこそ知ることができます。三区の方が均等にたかテレビを見ることによって、心の合併も進んでいくものと思います。これを見るのと見ないのとでは、住民の一体感に大きな温度差が生じてしまいます。5年後、10年後が不安です。

今後、中区の方がたかテレビを視聴するにはe o光テレビに加入する方法しか無いようですが、加入促進期間が過ぎた今では加入される可能性はほとんど無いように思います。三区の不均衡な三角形を改善するためには、今後も加入促進期間に準じたかたち、またはそれ以上の方策で加入を促す方法の検討をお願いいたします。情報文化の発信源はたかテレビからだと感じています。